

自信と希望にあふれる新成人たち

1月13日、「みらい」文化ホールで平成31年行田市新成人を祝う会が開催されました。

今年は午前と午後の部に分かれて行われ、合わせて619人が参加。華やかな振り袖や真新しいスーツに身を包んだ新成人たちは、自信と希望に満ちあふれた表情で仲間との再会を喜び合っていました。会では、「教えてください！ハタチのキモチ」と題した喫煙や飲酒、さらにはまちづくりに関する意識調査が実施され、講話の中で公表された結果に新成人たちは大きな関心を寄せているようでした。



技能五輪国際大会での金メダルを目指して

第56回技能五輪全国大会の家具職種で見事優勝したものつくり大学建設学科4年の山口智大さんが、12月20日、市役所を訪れました。

山口さんは、11月2日～5日に沖縄県で開催された同大会に出場し、二連覇を達成。また、8月にロシア連邦で開催される第45回技能五輪国際大会への出場が決まっている山口さんは、工藤市長から激励を受けると「金メダル(優勝)を目指し、日々の練習に励みます」と意気込みを語りました。



思いが込められた108の鐘の音

12月31日、忍城址鐘楼付近で平成最後となる「行田ゆく年くる年」が開催され、多くの人でにぎわいました。

先着108人分の鐘つきの整理券を求めて、たくさんの方が列を作り、配布時刻を前に定員に達しました。そして、午後11時30分から始まった鐘つきは、忍城おもてなし甲冑隊によるカウントダウンを挟んで行われました。参加者それぞれの思いが込められた鐘の音が、新しい年を迎えた静かな夜の街に響いていました。



大声援と応援歌で盛り上がる熱い戦い

1月12日・27日、行田グリーンアリーナで第8回引き城杯ミニバスケットボール大会が開催されました。

他市の子供たちとの親善と交流を目的に開催された大会に市外の9チームを含め、合計18チームが出場。選手らは元気よくコート内を走り回り、互いに何度もシュートを放っていました。また、ベンチからはチームのオリジナルの応援歌を交えた大声援が送られ、熱い戦いを盛り上げていました。



高さ50メートルから見る初日の出に歓喜

1月1日、古代蓮会館で迎春企画「タワーからみんなで見よう！平成最後の初日の出」が開催されました。

高さ50メートルからの初日の出を見ようと、夜半過ぎから多くの方が会館前に並びました。午前6時53分ごろ、東の空からオレンジ色の柔らかい光が展望室内に差し込むと、歓喜の声が上がリ、来館者は穏やかな新年の始まりを感じているようでした。



安心・安全な行田を担う消防職団員らが新春に集結

1月12日、平成31年行田市消防出初式が産業文化会館・市役所前および水城公園で開催され、消防職団員総勢約300人が集結しました。

張りつめた空気の中、服装規律点検を受けた消防職団員らは、はしご車やポンプ車など24台の消防車両に乗車し、分列行進を実施。その後、一斉放水訓練が行われる水城公園にサイレンを鳴らしながら急行すると、沿道に詰めかけた観客からは歓声が上がリ、拍手が送られていました。



プロ棋士のアドバイスに将棋盤を見つめる子供たち

1月19日、中央公民館で第33回行田市小中学生将棋大会が開催されました。

市内の小・中学生45人が参加し、将棋盤を挟んで真剣試合が繰り広げられました。また、行田市観光大使で、プロ棋士(女流五段)の矢内理絵子さんの指導対局も実施され、子供たちは、試合の進め方や勝敗のポイントなどプロ棋士のアドバイスを、将棋盤を見つめていました。



認知症について考えるきっかけに

12月21日、「みらい」文化ホールで地域包括ケア・認知症を考えるフォーラムが開催されました。

公益社団法人認知症の人と家族の会 埼玉県支部代表の花俣ふみ代さんの講演の後、認知症の方を抱える家族などの相談の場「つどい」や認知症の本人などが気軽に集える場「オレンジカフェ」を運営している方々が登壇し、日頃の活動内容を紹介。認知症になっても安心して暮らせるサポートが地域にたくさんあるとの話に、来場者は聞き入っていました。

